

今日のみことば

□ 2月5日(日) 使徒言行録 14章

パウロとバルナバは、福音を宣べ伝えるために、他の町々への訪問を続けた。それからアンテオケに帰り、そこの信者たちに神がなされたことを報告した。

□ 2月6日(月) 使徒言行録 15章

使徒たちの異邦人伝道に反対論が高まって、エルサレムで使徒会議が開かれた。使徒たちは、人はユダヤの律法に従わなくてもクリスチャンになることができる、と言った

□ 2月7日(火) 使徒言行録 16章

パウロの第2次伝道旅行。彼は最初の旅行で信じた者たちを訪問したいと願った。今回はテモテが同行した。パウロはヨーロッパに渡るようにとの召命を受け、ピリピで語った。

□ 2月8日(水) 使徒言行録 17章

テサロニケでは、パウロの教えを聞いた後に多くの人々がイエスを信じた。ベレヤではパウロとシラスは、毎日神のみ言葉を学んでいる熱心な聞き手に教えた。

□ 2月9日(木) 使徒言行録 18章

パウロはユダヤ人に失望して、異邦人だけに伝道しようとしたが、神は、救いの良い知らせは、すべての人々のためのものであることをパウロに告げられた。

□ 2月10日(金) 使徒言行録 19章

エペソでみ言葉を語ったとき、パウロと銀で偶像を造る者たちとの間に騒動が起こった。騒ぎが治まると、パウロは他の町々への訪問を続けた。

□ 2月11日(土) 使徒言行録 20章

旅から帰る途中で、エペソ教会の指導者たちに会いたいと告げ、パウロはそこで別れを告げ、助言を与えた。もう一度会えるかどうか分からなかった。

ろ ぼ No. 1801
2017年 2月 5日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

エペソ6:16

なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。

「救いに至る信仰(という身をおおい隠す)大盾を取りなさい。それでもって、悪しき[者]の火矢をみな消すことができるのです」「悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着け」と言われる。私は「信仰の盾」こそ、この戦いにおいては最も有効は武具であろうと思っています。

パウロは「悪魔が放つ火の矢」と言いました。当時の戦いで用いられる矢は、長さが1メートル余もあり、鉄のやじりがついており鎧姿の兵士を貫通するには十分な威力がある。その上にやじりには麻が巻かれ火が燃えている。突き通し、さらに火をつける、という二重の破壊力を持っていました。

このように「信仰の大盾」を指示し「火矢」に言及するのは、使徒が霊的戦いの豊かな経験を通して、この戦いがいかに恐ろしいものであるかを物語っています。

私はここでパウロが指摘する状況を、エペソの教会の人たちが直面している、現実の生活への示唆として聞き取らせていただくのです。それにはエペソの教会の人たちが、どのような問題と向きあって苦闘していたかを理解しなければなりません。エペソの町はアジア州の首都として政治的には栄えた町で、パウロは三年間滞在してキリストの福音を伝えました。女神アルテミス信仰との戦いは並みのものではありませんでした。仏具

屋デメテリオスがぶった演説は、パウロがもたらしたキリストの福音によって、当時の世界がいかに騒動したかをうかがうことが出来ます。「諸君が見聞きしているとおり、あのパウロは『手で造ったものなどは神ではない』と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、たぶらかしている。これでは、我々の仕事の評判が悪くなってしまっておそれがあるばかりでなく、偉大な女神アルテミスの神殿もないがしろにされ、アジア州全体、全世界があがめるこの女神の御威光さえも失われてしまうだろう。」(使徒19:26-27)と。その扇動は功を奏して、パウロは八つ裂きにされるどころでした。

私たちが伝えなければならないのは、万物の主であるお方です。自分の欲望を満たす神々ではなく、造られたお方の喜びを生きるのは、天地創造の初めから示されていたことです。それは私たちの心の問題、まさしく霊の戦いにほかなりません。その悪魔の攻撃の激しさ、強さは私が想像することが出来るようなものではありません。その攻撃をしっかりと受け止める武具が信仰の盾あるのみです。まさに、「義人は信仰によって生きる」(ガラテヤ3:11)のです。

今日私たちの信仰生活は、ほんとうに平穩であるに見えますがそうでしょうか。私は今日の私たちの世界の現状は、肉の世界の出来事ではない、悪魔の挑戦であることを認識しなければなりません。実に巧妙で、うまく丸め込まれてしまいそうです。この時こそ「信仰の大盾」をとるのです。「世に勝つ勝利は我らの信仰なり。世に勝つ者はたれぞ。イエスを神の子と信じる者にあらずや」(一ヨハネ5:4-5)とある通りです。

次週の聖書・説教	エペソ 6:10-20	救いの兜をかぶり
----------	-------------	----------

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コロサイ1:24-29 キリスト、栄光の希望

今日の世の中は、何とかして楽に生きる方法はないかと考える人は多い。そして私たちは、クリスチャン生活までそれに毒されてきてしまっていないか、と危惧を抱かなければならない状況を見ませんか。

しかし、「仕える者」の歩みは決して楽なものではなく、むしろ労苦に満ちたものです。けれどもその労苦は空しいものではない。それは喜びであり、神の力を体験するすばらしい機会ともなるのです。

パウロは神の国が到来する前に、キリスト者は苦難に会うと言われたイエスの教えを十分に理解していました。神のご計画のうちにあることを気づくなら、苦難は耐えがたいものではなくります。キリストが十字架上で血の流して下さってという使信は、私たちの唯一の「栄光の恵み」です。その絶大な価値が分かれば分かるほど、伝えるときの労苦は喜びとなります。



Read God's Word.